

薬局の在庫適正化

AIが実用段階に

(株)ユニケソフトウェアリサーチではAIを活用した保険薬局の在庫適正化サービスの実用化にあたり、複数の薬局チェーンにおける効果検証に着手する。8月31日に発表した。

ユニケは近年、クラウド等の技術における戦略的パートナーである(株)ビッグツリーテクノロジー&コンサルティングの協力を得て、薬局の業務アプリとクラウドを連携できるデジタル基盤を構築してきた。薬局の現場で発生したデータをクラウドで処理することに

より、薬局内のコンピューティングだけでは実現の難しかったビッグデータ分析や他のクラウドサービスとの連携など、先進技術を活用できる。

このデジタル基盤の上に、AIを活用した需要予測サービスを開発し、複数の薬局の在庫データをもとに検証を行った結果、欠品回数、発注・納入回数や毎月末の在庫金額を削減できることを確認した。また、6月末よりAIによる在庫適正化サービスを導入し実運用に入った薬局もあり、コロナ禍において処方箋枚数の減少や長期処方増加へと市場が変化する状況においても、一定の評価を得ている。

他方、保険薬局の店舗により様々な特性がある。特定の病院やクリニックの処方箋を集中的に受けるタイプ、不特定多数の医療機関の処方箋を受け付けるタイプ、処方箋の有無を問わず地域の住民の健康をサポートするタイプなど、特性により医薬品の需要は異なっている。これら様々なタイプの薬局にも「在庫適正化サービス」の効果について検証する。パイロット店舗を選抜の上、効果検証を進める。

ユニケは今秋、このAI需要予測による発注数量の自動抽出に加え、指定した日付で発注を行う予約機能、薬剤師に発注数の判断を仰ぐ医薬品のリスト化機能等を「在庫適正化サービス」として提供する予定。